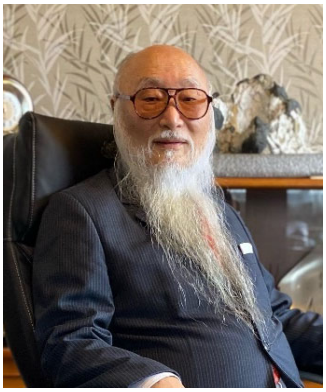
講演・発表内容 要旨

2024. 2. 5 版

ISLIS 主催　第 57 回生命情報科学シンポジウム

開催日:　2024 年 3 月 23・24 日(土・日)　済みません、日にち変更済みです
会　場:　千葉大学「けやき会館」西千葉キャンパス 正門左 JR 総武線 西千葉駅
懇親会兼帯津良一会長米寿祝賀会:　土曜夕刻 和処居 正門出て真直ぐ 5 分 左角

＜大会長講演＞



ホリスティック医学・不思議の科学・世界一の「潜在能力科学研究所」・「いやしのビル」への始動の年

(The year starting to a Large-Scale "***Human Potential Science Institute***" and "***Healing Hall***" for **Holistic Medicine** and **Wander Science**)

山本 幹男　博士(医学), 博士(工学)
(**Mikio YAMAMOTO**, *Ph.D., Ph.D.*)

国際生命情報科学会 (***ISLIS***) 理事長・ 編集委員長, 国際総合研究機構 (**愛理 *IRI***) 理事長, 科学平和文化財団(***SPC-F***) 理事長, 「潜在能力科学研究所」創立責任者, 「いやしのビル」企画委員長 (千葉, 日本)

要旨:　「ホリスティック医学と不思議の科学 Ⅳ」を主テーマとし2024年3月23/24日(土日)に第57回生命情報科学シンポジウムを 主催 国際生命情報科学会(***ISLIS***, イスリス,帯津良一 会長), 共催 国際総合研究機構(愛理***IRI***, アイリ), 科学平和文化財団(***SPC-F***)で,千葉大学 西千葉キャンパス けやき会館にて開催する.千葉大学関係者のご協力に感謝する.次回の第58回シンポは2024年8月2-5日(金-月)山本竜隆朝霞高原診療所 院長が大会長として富士山麓の朝霞高原等の施設で開催する. その次の第59・60回シンポは2025年春夏に***ISLIS***創立30周年記念行事として開催予定で大会長など募集中. これらに多くの方の講演・発表・実技披露等の参加を望む. ***ISLIS***は, その兄弟組織でこの分野の幾多の研究成果を挙げてきた***IRI***と共に, ***IRI***-「潜在能力科学研究所」を創設し「いやしのビル」を建設し, ホリスティック医学を含むこの分野の世界一の拠点に育てたい. 企画, 構想, 連携や2024年中に100名の人財を公募中で, 良い研究者や多方面の人材の推薦等で皆様のご協力を得たい. このために現本部にスペースを既に借増し, 小型ビルの建築確認済証も発行され、超大型ビルを含む大型ビル３棟の企画設計もほぼまとまった. ***ISLIS***の設立趣意は, 物質中心の科学技術から, こころや精神を含んだ21世紀の科学技術へのパラダイム・シフト (枠組革新) を通じ, 真理の追究と共に, 人間の「潜在能力」の開花により, 健康, 福祉, 教育と社会および個人の幸福や心の豊かさを大きく増進させ, 自然と調和した平和な世界創りに寄与する事である. ***ISLIS***は1995年の創立来28年半, 現在の科学知識の延長で説明が出来そうも無い不思議なこころや精神を含んだスピリチュアル・ヒーリング, 気功, 潜在能力, 超心理現象などの存在の科学的実証とその原理の解明を追求して来た. この間に生命情報科学シンポジウムを, 海外での開催や15回の合宿形式を含め57回主催し, 英文と和訳付の国際学会誌 ***Journal of International Society of Life Information Science*** (*J.Intl.Soc.Life Info.Sci.* or ***Journal of ISLIS***) を年2号刊行し, 総計7, 000頁以上の学術論文と発表を掲載してきた. この間に, 不思議現象の存在の科学的実証には多くの成果を挙げた. しかし, その原理の解明は世界的にもほとんど進んでいない. 本学会は現在, 世界の11カ所に情報センターを, 15ヵ国以上に会員を, 擁している.

キーワード:　ホリスティック医学, 国際生命情報科学会, ***ISLIS***, イスリス, 生命情報科学, 潜在能力科学, 国際総合研究機構, 愛理 ***IRI***, アイリ, 科学平和文化財団, ***SPC-F***, 科学, 精神, 脳, 心身, 代替医療, CAM, 統合医療, IM, 予防医学, 未病, 精神神経免疫, スピリチュアル, ヒーリング, 気功, ヨーガ, 瞑想, 潜在能力, 催眠, 心, 不思議, パラダイムシフト, 世界像, 世界観, 超常現象, 超心理, 超能力, 平和, 幸福

＜講演＞

がん光免疫療法の創生

田村　裕
千葉大学医学部生命情報科学（日本,千葉）

要旨：“がん免疫療法”は，William B. Coley（1890 年頃）による「丹毒菌；Coley’s Toxin」を用いた免疫賦活療法を源泉としている．その後，Frank M. Burnet（1960 年頃）により「がんの免疫監視機構」が提唱され，免疫系によるがんの認識と排除に大きな期待が寄せられたが，有効な治療成績を得るには至らなかった．
ところが，Gavin P. Dunn（2000 年頃）によって「がん免疫編集機構」の存在が示されると共に，本庶佑（京大）らによる T 細胞性免疫の機能抑制に関わる「免疫チェックポイント阻害剤」の開発を受けて“がん免疫療法”は，実臨床において顕著な効果を示し，現在，さらなる治療効果の向上を目指して，分子標的薬・化学療法・放射線照射療法などとの併用が模索されている．我々（千葉大学医学部生命情報科学）は，がん微小環境に於ける免疫抑制機構を至適に調整することによって，細胞障害性 T 細胞（CTL）の抗腫瘍免疫応答を賦活させることが可能な“がん光免疫療法”を創生し，その有用性を検討したので，得られた結果を報告する．
また，ラジオ波・低周波治療器等を用いた非侵襲性医療に関する取り組みに関しても，併せて報告する．

キーワード：がん免疫療法，がん光免疫治療，非侵襲性医療

連絡先：田村　裕，260-8670 千葉市中央区亥鼻 1-8-1 千葉大学医学部生命情報科学
電話 043-226-2544，E-mail: yutaka_tamura@faculty.chiba-u.jp

＜講演＞

ピラミッドパワーの科学的研究（2007 年 10 月～2024 年 3 月）
(Scientific Research on Pyramid Power: Studies from October 2007 to March 2024)

高木 治 [1]，坂本 政道 [2]，河野 貴美子 [1]，山本 幹男 [1]
[1] *国際総合研究機構(IRI)（日本、千葉）*
[2] *㈱アクアヴィジョン・アカデミー（日本、千葉）*

要旨：我々は 2007 年 10 月以来,ピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なるパワー（ピラミッドパワー）を実証するため,厳密に科学的な実験を続けている.実験ではバイオセンサ（キュウリ切片）を,PS 頂点とそこから 8m 離れた較正基準点（コントロール）に 30 分間置き,その後バイオセンサを密閉容器に移し,容器内で放出した揮発成分（ガス濃度）を測定した.我々は現在まで,主に以下に示す 2 種類の実験を行なった.I)「ピラミッドパワー実験（PP 実験）」: PP 実験は,PS 自体が潜在的に持っている,いわゆるピラミッドパワーを検出する.II)「瞑想実験」: 瞑想実験は,バイオセンサを PS 頂点に置いている間,被験者が PS 内に入り瞑想を行った.また瞑想中と比較するため,瞑想前と瞑想後の時間帯に,PS 頂点にバイオセンサを置いて実験を行った.本講演は主に II)の瞑想実験の結果について報告する.我々が瞑想実験によって実証した内容は,主に次の 4 点である.(1)PS 内で被験者が瞑想中と,瞑想後を比較した結果,生体センサに与えるピラミッド効果が異なった($p=3.13\times10^{-10}$).(2) PS 内で被験者が瞑想した影響は 20 日間程度残り,瞑想後 20 日以降,ピラミッド効果が検出できなくなった.(3)PS の有無,瞑想の有無の組合せは 4 通りあり,それぞれ実験を行った.その結果,ピラミッド効果の発生要件が明らかになり,PS 内で被験者が瞑想した時にのみ,ピラミッド効果が有意に検出された.(4)瞑想前実験は,被験者が実験室から 6km 以上離れた自宅に居る時に行った.瞑想前日の実験と,瞑想の数時間前の実験を比較した結果,瞑想前日のピラミッド効果は誤差の範囲でゼロとなったが,瞑想数時間前のピラミッド効果は有意な値となった.これまでの実験結果より,我々は PS が人間から発する未知エネルギーを変換する,エネルギー変換装置であると結論した.ピラミッドパワーに関する研究は,未だアカデミズムの世界では異端と見做されることが多い中,我々の実験結果は,この分野において世界初の研究成果である.今後この成果が一般に広く認められ,科学における新たな研究分野となり,幅広い応用の可能性が期待される.

キーワード：ピラミッド,潜在力,瞑想,バイオセンサ,キュウリ,ガス,サイ指数

代表著者連絡先：〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2　ユウキビル 4FA　　電話　043-255-5482　　電子メール：takagi@a-iri.org

参考文献

Takagi, O., Sakamoto, M., Yoichi, H., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2020) Scientific Elucidation of Pyramid Power: I. Journal of International Society of Life Information Science, 38, 130-145. https://doi.org/10.18936/islis.38.2_130

＜研究発表＞

バイオセンサから放出されたガス濃度の日内変動の特性
(Characteristics of the diurnal variation of gas concentrations emitted from biosensors)

高木 治 [1], 坂本 政道 [2], 河野 貴美子 [1], 山本 幹男 [1]
[1] *国際総合研究機構(IRI)（日本, 千葉）*
[2] *㈱アクアヴィジョン・アカデミー（日本, 千葉）*

要旨：我々はピラミッド型構造物(pyramidal structure: PS)の未知なるパワー（ピラミッドパワー）の研究を,2007 年 10 月から続けている.そしてバイオセンサ（食用キュウリ切片）を使用した厳密に科学的な実験によってピラミッドパワーの存在を実証してきた.また,バイオセンサから放出されたガス濃度の解析によって,バイオセンサの特性を明らかにしてきた.その結果,バイオセンサから放出されたガス濃度の概日リズムが季節によって変化することを明らかにした.つまり概日リズムの一周期が冬では 8 時間,春では 6 時間,夏では 24 時間,秋では 12 時間と 24 時間の混合リズムであることが判明した. また,1 周期が 24 時間の概日リズムをもつ夏と秋で,周期のピーク位置が 4 時間程度ずれていた.このことから,概日リズムの周期は同じであっても季節が変化するとピーク位置（位相）が変化することが判明した.さらに我々は,年間データ（n=468）からキュウリを切断した時刻とガス濃度の関係を解析した.その結果,年間を通してガス生成反応の強度が切断時刻によって異なることが判明した.つまり,ガス生成反応は午後 3 時頃に特に活発となり,午前 2 時頃に反応は抑制されていた.このことから,我々は以下の 3 点を推測した.1. 植物であるキュウリ間のコミュニケーションが,午後 3 時頃に活発化し,虫などの外敵に備え,免疫反応を活性化させている可能性があること.2. 午前 2 時頃は,キュウリが植物間コミュニケーションをとる必要のない時間帯であること.3. 午前 2 時頃から午前 6 時頃にかけて,日の出を迎えるにあたって,キュウリの生体反応の活性化が起こっている可能性があること.

キーワード：バイオセンサ,キュウリ,概日リズム,ガス

代表著者連絡先：〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2　ユウキビル 4FA　　電話　043-255-5482　電子メール：takagi@a-iri.org

参考文献
[1] Takagi, O., Sakamoto, M., Yoichi, H., Kokubo, H., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2018) Discovery of Seasonal Dependence of Bio-Reaction Rhythm with Cucumbers. International Journal of Science and Research Methodology, 9, 163-175.
https://www.researchgate.net/publication/331917254
[2] Takagi, O., Sakamoto, M., Yoichi, H., Kokubo, H., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2018) Relationship between Gas Concentration Emitted from Cut Cucumber Cross Sections and Growth Axis. International Journal of Science and Research Methodology, 9, 153-167.
https://www.researchgate.net/publication/331917255
[3] Takagi, O., Sakamoto, M., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2022) Seasonal Changes in the Circadian Rhythm of Gas Released from Harvested Cucumbers. Natural Science, 14, 503-516.
https://doi.org/10.4236/ns.2022.1411045
[4] Takagi, O., Sakamoto, M., Kawano, K. and Yamamoto, M. (2023) Potential Power of the Pyramidal Structure VIII: Exploration of Periodic Diurnal Oscillation of Pyramid Power and Bio-Entanglement. *Natural Science*, 15, 179-189. https://doi.org/10.4236/ns.2023.154013

＜研究発表＞

目指せ, 潜在意識による鹿との共生

橋爪　秀一
Idea-Creating Lab (日本、横浜)

要旨：古くから,日本人は鹿に対して可愛らしい,高貴である等の好印象を持っており,神使或は神獣として崇めてきた.しかし,2022 年には年間約 57 万頭の鹿が害獣として駆除されており,駆除された鹿の大部分は,ゴミとして廃棄されている.我々は鹿との共生を目指すためにも,駆除された鹿を有効資源として利用すべきと考えており,鹿肉,鹿皮や鹿茸の天然資源としての価値を模索している.

今回は,ニュージーランド,台湾,モンゴル,スコットランド,中国及びドイツにおける鹿との付き合い方と鹿の資源としての利用法について報告し,鹿との共生方法について考察したい.日本では,駆除された鹿の資源利用については徐々に増加し,改善されてきている.しかし,鹿との共生方法に関しては,多々試行はしているが,鹿を柵により締め出すこと以外の方法では,優れた効果が認められないのが現状である.その失敗の原因としては,人間同士の協力体制の欠如が挙げられる.鹿との共生を実現するためには,先ずは,その地域住民が一致団結した協力体制を図る必要があると考える.更に,我々は銃或いはワナのような過激な手段での鹿との共生ではなく、鹿の潜在意識に基づく平和的な鹿との共生を求めている。その為には,鹿の性質及び習性をよく知る必要がある。将来的には、この平和的な鹿との共生方法を、自然,動物,植物,他国など様々な対象との共生に如何に生かすかも模索していきたい.

キーワード：鹿,害獣,天然資源,潜在意識,共生

連絡先：橋爪秀一, 〒236-0005 横浜市金沢区並木 3-7-4-1303　電話･Fax. 045-783-2510　E-mail: hashizume.shu@nifty.com